

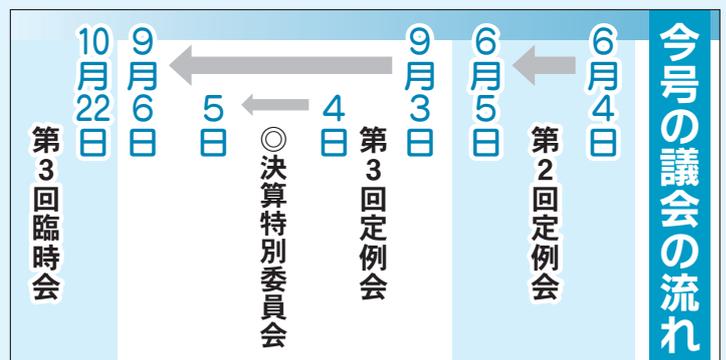
月形町 議会だより

No.
38
2025. 1. 1



道内行政視察 浦幌町議会議員の皆様と（行政視察の詳細は次号に掲載いたします）

第2回定例会	2
議員研修会報告	8
第3回定例会／決算特別委員会	10
第3回臨時会	13
舞い降りて月形／編集後記	14



令和6年 第2回定例会

第2回定例会は、6月4日と5日の2日間にわたり開催されました。初日の4日には、5名の議員による6項目の一般質問が行われ、翌日の5日には、議案7件、承認3件、報告3件、諮問1件、意見案3件、会議案1件が審議され、すべて原案どおり可決・承認されました。

質疑応答

(一部抜粋)

令和5年度 一般会計

ふるさと納税の

寄付金額の増加

問 ふるさと納税の寄付が増えた理由は？ (滝口)

答 人気商品の定期便や、寄附申込サイト数の増加などが影響している。特に制度が厳格化された後も、本町の返礼品の水準が維持されたことが寄付を促進した。

保養センター等

契約締結事項の変更

請負契約の変更

問 なぜ契約金額が増えたのか。 (金子)

答 最初に再利用予定だった加圧給水ポンプが壊れてしま

ったため、新しいポンプに交換する必要があり、これにより契約金額が増えた。

問 継続費の執行残で設計変更を行っても問題ないのか。

答 継続費の執行残を使って設計変更を行うことは、規則に基づいて適切であり、事業の完了に向けて必要な予算をうまく活用している。

月形町振興公社の

経営状況

トマトジュース

販売状況

問 トマトジュースの販売に価格改定がどう影響したのか。 (我妻)

答 価格改定前にトマトジュースの販売数が増加したが、改定後、若干落ち着く時期もあった。しかし、5月末からは回復し、販売状況は改善している。

パークゴルフ場の

芝の状況と見通し

問 パークゴルフ場の芝にどんな影響があったのか。 (我妻)

答 高温や干ばつの影響で、パークゴルフ場の芝が傷んでしまった。これらの影響は今後も続く可能性があるため、来年度にも影響が残るかもしれない。



レストランの

調理人の確保は

問 月形温泉に整備されるレストランについて、月形高校生徒の開発提案によるメニュー提供の予定もあり、調理人の確保はどのようになっているのか。 (金子)

答 調理人は、令和5年7月に振興公社の社員として1名採用している。そのほか、5〜6名のパートが必要と考えているが、6月現在4名の応募があり、順次面接を行う予定である。
月高生開発メニューも、町内の飲食業者との連携で進めているところである。



5人の議員からの

一般質問

町政を問いました!

一般質問

観光



若井 昭二 議員

月形の観光に対して、今後の展望と構想は?

《町長》 皆楽公園エリアの整備や、

月形の歴史を踏まえた観光PRをしたい

議員 保養センター等の改修と共に道の駅もスター

トし、観光に力を入れていくと思うが、観光についての構想を伺いたい。

町長 道の駅の設置により、印象と情報提供がたいへん重要である。

保養センターでは、町内地

図をパネル化し、店舗や特産品を紹介、町内の店舗にも足を運べるようPRを行う。レストランには、地元食材を利用したメニューを提供する予定であり、特産品の開発は、

月形町ふるさと特産品開発補助事業を利用した開発を進めている。町の公式LINEや公式ホームページによる情報の発信、町内への観光客の誘導を図っていく。

議員 町民に向けてなのか、

外からのお客様を基準としたレストランなのか伺いたい。

道の駅のレストランでもあり、町内外の方々に食を楽しんでもらえるよう、振興公社に指示をする。

議員 レストランについても、PR不足だと思う。

行政に問うと広告を掲載していると答えるが、それは当たり前のことで、もう一段階上のPRをすべきと思う。PRにはいろいろな形があり、名前を知ってもらわなければ意味がない。町民の方々、事業者や農家の方々も一丸にならなければならぬし、町長が、自慢できるような月形を作ってもらいたい。

次に、権戸博物館を観光資源として、どう生かすのか伺いたい。

町長 本町の歴史文化、社会

義、北海道の改革の礎となつたことを後世に伝える必要がある。温泉や道の駅と複合的

にPRし、相乗効果を期待する。旅行会社等と連携を図り、権戸集治監時代の解説を聞きながら町内を回遊するバスツアーなど、体験型観光や学生への教育旅行学習の推進を図りたい。

昨年オープンした本田明二ギャラリーも、公式ホームページや公式LINEを活用し、町外への発信をしたい。

議員 知床世界遺産センター

では、AR(拡張現実)を使い、タブレットを介して映像化できる。資料館もBGMやバーチャルも含めた楽しみ方が必要。

町長 観光振興について、町

民の皆さんや議会とも十分話をし、取り組んでいきたい。

議員 町長が、リーダーシッ

プを発揮し、その熱量を町民の方に見せ、町民からも熱量を返してもらおう、相互関係が見たい。熱量がなければ、誰も応えてくれない。町長がトップなのです。強い意志で臨めば、付いてきてくれる方々がいると私は思う。

一般質問



松田 順一 議員

1. 月形温泉ゆりかご(道の駅275つきがた)の改修工事の進捗状況は？

《町長》 計画どおり仕上げの段階である

《議員》 月形温泉ゆりかごは大規模改修が実施され、

道の駅名も一般応募により名付けられた「道の駅275つきがた」としての登録を目指し、本年9月には新たな施設にリニューアルオープンする予定である。1点目として施設の改修工事の進捗状況、2点目として町の広報で募っている出展者と出品の応募状況、3点目として、レストランなどのスタッフの応募状況を伺いたい。

《町長》 町民保養センター等の改修工事の進捗状況については、令和6年5月25日の時点で、建築主体工事は68%、機械設備工事は72%、電気設備工事は70%である。それぞれの工事が仕上げの段階に入っている。

2点目の道の駅売店への出

品の状況は、4月24日に指定管理者である月形町振興公社主催で出品者説明会を開催し、7事業者が出席した。現在、町内事業者の出品予定商品は、黒毛和牛のハンバーグやソーセージ類、米粉を使った菓子類、ラズベリージャムなどがあり、その他には町外からの出品者も予定されている。

3点目のレストラン等のスタッフの応募状況だが、現在のところ予定人数の充足に至っていない。4月5日からはフロント、レストランの社員を、5月7日からは清掃、レストランのパート募集を開始している。まず町民から募集を開始し、その後は、ハローワークや求人広告などで、全国からの募集を広げ、あらゆる手段で人材を確保し、リニ

ユールオープンに向けて万全の体制となるよう指定管理

者を支援していく。

2. 上坂町政の2期目の総括は？

《町長》 先頭に立って課題の仕上げに取り組む

《議員》 上坂町政の2期目については、新型コロナウイルス感染症対策に追われた4年間で、町民の生活や行動にも大きく制限がかかった時期になった。その中で、

い、拠点化施設などのインフラ整備の課題など多々ある。町長自らの2期目について伺いたい。

《町長》 多くの課題が山積みであり2期目の4年

間の総括を振り返る余裕はないが、コロナ感染症やバス路線の存続・維持についても、役場職員ともども一歩一歩しつかり対応している。また、新しいまちづくりに関心のある皆さんが参加し、ともに生き、ともに創る月形について、協力やご支援をいただき、感謝している。農業、商工業振興、子育て支援や月形高校の存続を含めた教育環境など議会の皆さんの理解や支援を得ながら、私が先頭に立って仕上げに取り組む。

中一貫の義務教育学校の開校が予定されている。一方で、札沼線が廃止された2020年3月末の月形町の人口は3080人だが、本年2024年3月末の人口は2791人に減少した。また、月形高校生の入学者が減少し、月形高校の存続について懸念されている。今後、中央バスの岩見沢月形線の撤退など公共交通の問題や、札沼線の廃止に伴



我妻 耕 議員

アメダスの設置、道の駅での気象情報の提供は

《町長》 必要性は感じており、

民間情報の活用も必要に応じて協議する

議員

令和3年6月の定例会の一般質問で、町長は

月形町内の積雪におけるアメダスの追加設置の要請は厳しいがその必要性は感じており、要請し続けるとの答弁であった。また、令和元年度に壊れた月ヶ岡観測所の自動積雪深計の復旧については、費用対効果も考え、1日1回の目視による観測でデータを得るとのことであった。その後、私の方にも複数の町民の方から、積雪のアメダスについての声があり、また本年9月には道の駅のオープンを控え、リアルタイムの気象状況の情報提供は、町民ばかりでなくドライバーにも必要と考えるが。

町長

気象庁が設置する地域気象観測システムアメダスは、月形町では降水量、

風向、風速、気温、湿度が観測されているが、積雪値は観測されていない。積雪の深さと降雪量の実況を解析積雪深、解析降雪量として気象庁は推計、公表しており、ある程度の状況把握は可能だが、その値は満足できるものではない。現在目視による積雪等の観測については、この解析値がより実測に近づくまでは継続する必要がある。アメダスの設置には、令和元年には500万円以上かかると確認しており、現在ならば、それ以上である。

道の駅や国道275号線を利用される方への情報発信については、沿線の町村会及び市長会などと歩調を合わせた取組みが有効とも感じている。また、本年4月から全国に先駆け、北海道で運用が開

始されたデジタルアメダスは、スマートフォンで手軽に気象概要を知ることができると、その普及にも期待している。

月形町民や私の実感としては、月形町は全道でも有数の豪雪地帯である思っているが、降雪について、アメダスが設置されている新篠津村や岩見沢、美唄などはよくニュースで流れるけれど、月形は流れないなど、町外の人たちは月形町を豪雪地帯だと思っていないということがある。その意味では、アメダスを整備して、マスメディアなどで月形が今こんな状況にあるという冬の困難な生活の状況や、国道の状況などを伝えてほしい。

議員

アメダスの設置の要請活動について、これまでの内容と今後の予定を教えてください。

町長

令和5年6月5日と6年5月27日に、札幌管

区気象台気象防災部長との面談の際に、口頭で要請をしたが、これまでと同様、現在の

観測ポイントで足りているとのことであった。それ以上の具体的な要請活動は、今のところ考えていない。

議員

月形には、国土交通省の水管理国土保全局の

月形観測所があり、石狩川の月形大橋の付近で水位とともに積雪も自動観測している。また、国道の除雪センターのところでも積雪の観測をしている。これら2箇所のデータの活用は考えられないのか。また、道の駅での情報提供では、設置予定のデジタルサイネージ（電子掲示板）を利用して日本気象協会など民間の気象情報提供もできるのではないか。

町長

必要に応じて、活用方法を関係機関などと協議をする。



一般質問

教育



金子 廣司 議員

事故が発生した際、適切に支援する仕組みは？

《町長》 条例や規定の事例を参考に調査を進めている

議員

令和6年3月の定例会において、小学校で発生した事故に関する質問を

行った。その際、古谷教育長は学校の責任を認め、町長は傍聴されていたご両親に謝罪を行い、子どもへの支援についても言及された。今回確認したいのは、町長が述べた「支援」が具体的にどのような形で進められているのかである。また、その後数か月の間にどのような対応が取られたのかも伺いたい。同様の事故が発生した際、被害者を適切に支援する条例などの仕組みを整備すべきではないかと考えている。町の今後の対応方針について聞きたい。

町長

令和3年に発生した事故に関しては、教育長を中心として話し合いを行い、事故当時の対応や

不手際について考えを伺った。その後、損害賠償責任について弁護士の見解を仰ぎ、町に責任があるとの見解を得た。4月には保険会社と協議を進め、学校活動に適用可能な補償の範囲を確認した。また、私自身も保護者宅を訪問し、謝罪を申し上げたところ

である。現在、治療が継続中であるため、損害賠償額の提示には至っていないが、後遺障害の有無や精神的な影響との因果関係を慎重に調査する予定である。同時に、同様の事故が再発した場合の対応策として条例や規定についても検討しており、他自治体の事例を参考に調査を進めている。

議員

教育長が責任を取る形で辞職願を提出されたと聞いている。これは非

常に重い決断であり、その英断を高く評価する。しかし、辞職願が提出されてから3か月が経過しても後任の人選が進んでいない現状には懸念を抱いている。住民や被害者が納得できる形で対応を早急に進めるべきである。

また、今回の事故を教訓として、被害者支援の仕組みを整える必要がある。トップとしての英断が求められる中、現状のままでは被害者が不当に不利な立場に置かれる危険がある。この点について、町長の具体的な対応方針を伺いたい。

町長

教育長の辞職願については、現時点では後任者の人選を慎重に進めている。教育長には、事故の対応を進めることが現段階での責任の取り方であると考え、引き続き指示をしている。

同様の事故が再発した場合に備える条例や仕組みについては、現状のままでは良いのかどうかということについても検討を進めており、現在調査を指示している。今回の事故



は町全体にとつてたいへん重い教訓である。二度と同様のことが起きないように、町として責任を果たしてまいりたい。また、被害者の方々に寄り添い、早期に解決を図るよう努めていく所存である。

議員

町長の決意と現状の進捗について理解した。しかし、後任者の選任が遅れることで、町全体の対応が曖昧になる懸念があり、トップとしての迅速な判断を求めたい。また、再発防止策についても、住民が安心できる具体的な対応を早急に講じていただきたい。

地方が未来を支える存在に…

演題 「人口減少と市町村の重要性・民主主義について
自省を含めての所感」

講師 元衆議院議長 大島 理森 氏



報告

2024年7月2日 札幌コンベンションセンター

北海道町村議会議員研修会

地方自治の現状と課題について、豊富な経験をもとに語られました。
地域の課題にどう向き合うか
地方議会が「民主主義の学校」であること強調し、住民と密接に関わりながら地域課題に向き合う重要性を指摘されました。人口減少問題については、子育て支援の現物給付の効果や北欧諸国の事例を紹介し、地方自治体が具体的な政策を展開すべきだとのことでした。また、地域のつながりを活かした“ソーシャルキャピタル”の活用が、地域活性化の鍵であると強調されました。

多様性と広域連携
大島氏は、日本の政治が戦後一貫して社会的分断を防いできたことを評価し、多様な価値観を尊重する連立政権の時代が重要になるとの展望でした。さらに、広域的な自治体間の連携や、専門性を活かした協力体制の必要性を強調

気候変動を知ろう！ 備えよう！

演題 「札幌が東京より暑くなる！？
～加速する気候変動～」

講師 気象予報士 森 朗 氏

されました。
住民と共に課題解決を
講演の締めくくりでは、地方議会が住民と共に課題解決に取り組む姿勢が重要であり、地域社会が日本の未来を支える存在になることへの期待を表明されました。



気候変動が地域社会や環境に与える影響について、専門的知見を基にわかりやすく解説されました。

背景と目的

本講演は、地方自治体が抱える課題と気候変動の深刻な影響を共有し、持続可能な地域社会を目指すヒントを提供することが目的でした。急速に進む気候変動が、地方社会に与える多様な影響を考える機会として位置付けられました。

気候変動の影響

北海道の気温上昇は全国平均を上回り、猛暑日や熱帯夜が増加傾向にあります。森氏は、2050年には札幌の気候が東京に近づく可能性を指摘し、冬季には湿った重い雪の増加が、除雪作業や交通に大きな影響を与える懸念を示されました。

農業・漁業への影響

農業では稲作の高温障害や、玉ねぎやジャガイモの収穫量減少が懸念されています。漁業では、サケの減少とブリの増加といった資源変化が見られ、気候変動が生態系にもたらす影響の深刻さが浮き彫りになっています。

自然災害リスクに対する防災

集中豪雨の頻度が高まり、洪水や土砂災害のリスクが増加しています。こうしたリスクに備えるためには、防災計画の整備が急務であると強調されました。

持続可能な未来に向けた提言

温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの活用、そして森林資源の適切な管理が求められています。また、地域住民と自治体が協力して防災体制を強化し、気候変動に対応する地域づくりの重要性が強調されました。

森氏は、「一人ひとりが気候変動を理解し、行動することが地域全体の力を高める鍵となる」と述べ、講演を締めくくりました。



議員研修会

2024年7月10日 上砂川町民センター

空知町村議会議員研修会

E(根拠)B(に基づく)P(政策)M(形成)を 推進しよう!!

演 題 「地方議会におけるEBPMの推進について」

講 師 総務省統計局 統計利用推進研究官 ^{ながふし}長藤 ^{ひろあき}洋明 氏

根拠に基づく政策の重要性を学ぶ

統計データを活用し、合理的な政策決定を行う重要性について、具体的な事例を交えながら分かりやすく解説されました。冒頭で、「EBPMとは、エビデンス(根拠)に基づいて政策を設計し、限られた資源を効果的に活用するための手法」と説明。日本全体で進行する少子高齢化や、人口減少問題を例に挙げ、データ分析を通じて地域ごとの課題を明確にし、住民に信頼される政策を実行することが、地方議会における重要な使命であると述べられました。
人口減少を見据えた政策を
北海道における人口動態について触れ、札幌市への人口集中と地方部の人口減少という現状が浮き彫りになる統計データを紹介。例えば、空知管内の市町村の多くが転出超過である一方、札幌市が道内から多くの人口を吸収してい

る現状がデータで示されました。このことを参考に、地域の将来を見据えた具体的な政策立案が求められていることが強調されました。

統計データなど根拠に基づいた政策を

また、物価上昇と賃金動向についても解説があり、特に中小企業での賃上げの遅れが、地方経済に与える影響について指摘されました。さらに、GIS(地理情報システム)を活用して地域人口や将来推計を視覚的に把握し、政策形成に役立てる具体的な方法も紹介されました。

データと住民の声から課題をとらえよう

「EBPMを実現するためには、政策の根拠となるデータを的確に収集・分析し、地域ごとの実情に即した課題解決策を立案する必要がある」と述べるとともに、「課題の発見には統計データだけでなく、地域住民の声や事例報告も重要な手がかりとなる」と強調されました。

研修に参加した議員からは、「統計データの活用方法が具体的に理解できた」「住民への説明責任を果たす上でもEBPMの視点が欠かせない」といった声が聞かれ、今後の議会活動に生かしたいという意見がありました。

今回の研修は、根拠に基づく政策形成の重要性を改めて認識し、地域住民の期待にこたえるための一歩となる貴重な機会となりました。

※EBPM: Evidence Based Policy Making の略

2つの議員研修会で

大島氏の講演で「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」という言葉が紹介されました。これは、信頼関係や人間関係(社会的ネットワーク)を基盤に、協力して行動し、社会の効率性を高めるという考え方です。一方、EBPMは、統計などのデータに基づいて合理的に政策を立案しようというアプローチです。この二つの考え方のバランスが取れた議員活動が重要であると感じた研修でした。

令和6年 第3回定例会

第3回定例会は、9月3日から6日までの4日間にわたり開催されました。初日の3日には、議案8件、報告1件が審議され、すべて原案どおり可決・承認されました。また、令和5年度の各会計決算6件は決算特別委員会(若井昭二委員長)に付託されました。4日から5日にかけて審議が行われ、その後、本会議において決算特別委員会からの審議結果が報告され、各会計決算が認定されました。最終日には、意見案2件、会議案1件が審議され、すべて原案どおり可決・承認されました。

質疑応答

(一部抜粋)

● 一般会計

■ 防災対策専門員

問 これまでの防災対策専門員の採用辞退による危機管理の業務への影響や、担当部署の負担はあるのか。(我妻)

答 業務への影響はあるが、危機管理担当の職員に加えて総務課全体で業務を進めている。今後は、危機管理担当の係長の新たな配置も考えていく。

問 町民の防災意識にとって、防災対策専門員の存在は必要で、新たな採用は考えられないのか。(東出)

答 検討する。

■ コロナワクチン

問 ワクチン接種の65歳以上、基礎疾患のある方の個人負担額は3500円とのことだが、それ以外の方は。(東出)

答 65歳以上、もしくは60〜64歳でも重い基礎疾患のある方の自己負担額は3500円だが、それ以外の方に助成金はなく、町立病院なら1万6786円となる。

問 ワクチンの種類の周知は。(東出)

答 ワクチンの種類は国からまだ示されていない。種類の周知については、これまでのインフルエンザ同様に、町から周知はしない。

■ 起業者支援

問 起業者等への支援事業では、新規起業者が対象であったと思うが。(金子)

答 平成17年当初の起業者への支援補助金の要綱では、新たに起業される方への支援としていたが、28年の新要綱では既存の事業者も対象となった。

■ 岩見沢への代替バス

問 中央バスに代わる新たな岩見沢へのバスの車種と、運行経費の割合は。(我妻)

答 45人(路線バス仕様で55人)乗りの中型バスと29人乗りのマイクロバスの2台で、時間帯に応じて使い分ける予定である。自治体が負担する額は、そのうち50%が均等割、残りの50%が利用割で、月形町55%、岩見沢市45%と考えている。

問 代替バスの運行経費の内訳は。(滝口)

答 経費は約3600万円、そのうち月形町の負担は約400万円と試算し、準備を進めている。



議会は公開されています

傍聴の方法は二つ

- 1 生の迫力ならば 役場3階の議場の傍聴席で
- 2 モニター中継で気軽に 役場1階の町民サロンで

定例会などの開催予定や傍聴に関してお気軽にお問い合わせください
議会事務局 ☎53-2321 (内線372)



お気軽に傍聴してください

質疑要約

決算特別委員長 若井 昭二 議長（大釜）、監査委員（金子）を除く5名で構成

令和5年度 各会計

決算特別委員会

月形町一般会計 介護保険事業特別会計
 国民健康保険事業特別会計 後期高齢者医療特別会計
 農業集落排水事業特別会計 月形町立病院事業会計

決算特別委員会とは

～住民のためにどのような仕事をしたのか？～

月形町の令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)の予算に対して、実際にどのようにお金が使われたかを示す決算書類を用いて、月形町の決算について審査をしました。

私たちの必携書である「議員必携」には、『特に重要なことは、「金をいくら使ったか」ではなく、「住民のためにどのような仕事をしたか。その仕事の出来高と出来具合を見ること」が主眼である』とあります。月形町議会では毎年9月に、前年度の決算について審査しています。

令和5年度 一般会計

職員給与と費

Q 令和5年度一般職の時間外手当の状況は？

(東出)

A コロナの5類への移行後、各種行事の正常化が進み、それぞれの課で時間数の増減はあるものの、時間数は4年度に比べて若干減少した。

Q 一般職給与費で、4年度、3年度と3月には1千万円を超える減額補正が行われたが、5年度3月は161万円とその額がかなり減少した。その理由は？

(我妻)

A 3、4年度は年度途中で、複数の退職者があつたためである。

ふるさと納税

Q ふるさと納税の返礼品の内訳は？

また、ふるさと納税事業は、事業費予算2億円のうち記念品や支援業務で1億3000万円となっていたが、決算で

は事業費が2億7900万円と増えたが、記念品、支援業務が1億2000万円であった。この経費の圧縮の理由は何か。ふるさと納税の寄付目的の内訳は、どのようなになっているのか。

(滝口)

A 返礼品は、米が定期便、単品をあわせて一番多く、メロン、スイカが続ぎ、飲料、野菜その他花などと、農産物が約9割を占めている。圧縮の理由としては、記念品のうちメロンなどで次年度発送のものもあり、それらが5年度の支出に入らなかったためである。寄付の目的別の額は、

●子供たちが健やかに力強く成長するための事業 1億5490万円

●農業振興に関する事業 3951万円

●地域公共交通の維持確保に関する事業 1483万円

●観光振興に関する事業 955万円

●移住に関する事業 320万円

●その他事業 5728万円

移住定住事業

Q 5年度からの移住体験事業のなかの保育留学業務は？

(我妻)

A 保育留学では、1週間程度の留学で本人負担は25万から30万円くらいであり、5年度は4家族の受け入れがあった。6年度は9家族を予定している。

鳥獣被害対策事業

Q ヒグマの駆除についての取組みは？

(東出)

A 業務上、危険を伴うものであり、現状としては猟友会などへのヒグマの出没報酬は支払われていないが、それらを含めて体制整備をしていく予定である。

学校給食

Q 米の不足が言われているが、給食への影響は？

(東出)

A 米に関しては、月形産が地元の業者から供給されているが、現在、不足の影響の話はない。地元産の食材については、切り干し大根は年中、カボチャやじゃがい

もは収獲時期、旬に活用している。

●令和5年度 特別会計

●国民健康保険 繰入金

Q 財政調整基金からの繰入金が増額された理由と、この取り崩しは一時的なものなのか今後も続いていくのか。
(滝口)

A 令和5年6月に保険税の条例改正があつて保険料額が確定し、増額補正をした。北海道すべての自治体で保険料が統一される12年度までは、月形町で保険税を決定し、徴収することになる。適正な基金残高までは、保険税を抑え気味にするため、基金の活用を考えている。

●農業集落排水事業 繰入金

Q 一般会計からの繰入金は、繰り出し基準内、基準外のどちらだったのか。今後の方向性はどのようになるのか。
(滝口)

A 総務省発出の繰り出し基準で、繰入金のうち令和5年9月の浸水災害による修繕費は基準外で、それ以外は基準内である。今後も、老朽化による修繕で基準外の繰入金の発生も考えられる。市南と月形の2か所の終末処理場の維持管理をするともに再編も協議している。

●介護保険 居宅介護サービス

Q 居宅介護サービス等給付費が増額し、施設介護サービス給付費は減額したのはなぜなのか。
(松田)

A 居宅給付費の増加は、藤の園の特養部の方たちがサービスを利用し始めたことによる。施設給付費の減額は、要介護3以上の認定者の減少、コロナまん延による新規受入れの中止など、特養老人ホームへの入所の減少によるものである。

●介護保険 生活支援体制整備事業

Q 生活支援コーディネーター活動事業の内容は？
(我妻)

A 地域にいろいろな生活支援サービスの体制を整える事業のひとつである。社会福祉協議会に委託しており、コーディネート役割は、地域ニーズやそれに必要なサービスの把握、人材の確保やネットワークづくりといった体制の整備などである。5年度では、有償ボランティア「ちよびボラ」の取り組みがある。

総括質疑

※総括質疑
決算特別委員会において、各会計の審議のあと、すべての会計にまたがって総括的に質問するもの。

Q 決算資料の精査時、DXを推進し、資料
滝口

の早期提出をお願いしたい。また、ふるさと納税の収益を原資に各種事業を展開されると思うが、返礼品の多くは農産品である。農産品の生産基盤を維持するために、農業者への支援を拡充し、ふるさと納税収益の確保に努めてほしい。

A 決算資料提出の早期化は検討する。基金の活用や農業基盤整備などを進めるために生産者や農協と話し合いを行う。また、ふるさと納税の収益は、目的を持った使い方も含めて農業振興にも生かし、政策に反映していきたい。
(町長)

Q 町立病院の経営改善構想による体制づくりも進む中で、岩見沢市の統合新病院との連携が重要であると思うが。
東出

A 岩見沢市の新病院との連携は検討する。まずは町立病院の初期医療体制を強化するなど充実させる。
(町長)

Q 9月の防災月間を踏まえ、小中学校での防災訓練や教育の取り組みを教えてください。
我妻

A 令和5年度は、小中学校で火災・水害・地震の避難訓練を実施。中学校でも同様に訓練を行い、総務課や消防署の協力で講話や備蓄品の展示も行った。また、小合同中で水害を想定した訓練を実施し、過去の経験を踏まえた防災教育を進めている。今年度も訓練は、予定どおり進行している。防災教育は授業計画に基づき、社会科や実習を通じて取り組んでいる。
(教育長)

Q 月形高校の存続の見込みや取組みは？
田松

A 道教委からは、入学者に関して20名を超えてほしいとの話があり、月形において懇談会の場も持ちたいとの要望も受けている。生徒募集に関しては、6年度は江別市内の中学校にも訪問し、また全国留学のことで東京での合同説明会へも参加した。これからも月形高校の特色を発信していく。

第5回

舞い降りて月形
住んで、見て、
感じた月形は！



月形町農業協同組合 越谷 直人さん

農家の方の信頼に応えて、 つながりを感じ、働いていく

今回は、JA月形町に勤務されて6年目の越谷直人さん37歳です。JAでは花き担当で、花農家さんと共に、販売などの仕事を担っています。また、小学生2人のよきお父さんでもあります。

【プロフィール】

- ・出身地の松前町から、15歳の時に函館市に移住。
- ・ラーメン店に勤務し、その後、外回りの営業に転職し、6年間勤務。
- ・9年前に月形町に移住して、令和元年にJA月形町に勤務。
- ・趣味は映画鑑賞と子どもたちのアウトドアを楽しむこと。

- Q 月形町に住むきっかけは
- A 妻が月形町出身で、この町の静けさや暮らしやすさに惹かれました。自然豊かな環境で子育てをしたいと思ったのがきっかけです。
- Q 移住後の生活は
- A 函館より雪の量が多くて、慣れるまで苦労しました。ただ、都市部へのアクセス

も良く、子どもと遊べる水族館や動物園にも行けるので、快適な暮らしです。

Q 農家の方とのつながりは

A 初めは農家さんとの距離感が難しかったです。仕事をしながらで、信頼関係を築けてたと思います。農家さんからの相談に応えることもあり、つながりを感じながら働いています。

Q 仕事での思い出は

A 入社1年目に、花の苗の発注をキャンセルされたことを忘れてしまい、当時の組合長に相談したところ「大丈夫、自分の所で植えるよ」と助けていただきました。この経験から、責任感を持つ大切さを学び、同じ失敗を繰り返さないように意識しました。

Q 月形町に一言

A 冬のスクールバスの運行については、雪で危険な箇所も多いので、子どもたちが安全に通える仕組みを整備してほしいです。

Q 月形町への期待は

A 空き家を活用して移住者を増やせるように対策してほしいです。若い世代が増えれば、学校の友達も増えて子どもたちにも良い環境になると思います。

【インタビューを終えて】

札幌市が本社の函館支社のラーメン店に勤務していた越谷さん、札幌への転勤を選ばなかったのは、ギリギリした所ではなく、静かな環境が子どもたちにとっても自分にも合うのではないかと言う。その越谷さんが、奥様の実家がある月形へ移住されたのは、必然とも思いましたが、取材を通じて仕事と家族への思いが、言葉の端々に感じられました。月形の基幹産業である農業を支える仕事に、責任感をもって勤務されている越谷さんにエールを送りたいです。

広報特別委員会

- | | | |
|------|-----|---|
| 委員長 | 松田順 | 一 |
| 副委員長 | 我妻井 | 耕 |
| 委員 | 若井昭 | 二 |
| 委員 | 滝口伸 | |

9月には、町長選挙と町議会議員再選挙が行われ、私たちの仲間も1人増えました。11月には別海町と浦幌町への行政視察を行い、議会活性化が必要であることを学びました。新年を迎えて、いっそう町民の声に耳を傾け、議会だよりで発信していきます。(松田)

〒061-0592 北海道樺戸郡月形町1219番地
TEL (0126) 53-2321 FAX (0126) 53-4373
E-mail : gikai@town.tsukigata.hokkaido.jp